# しげのぶ特別支援学校だより

発行所
東温市田窪2135
愛媛県立
しげのぶ特別支援学校
印刷所
株式会社　松栄印刷所

## 「麦踏み」に思うこと

校長　宮﨑修次

令和六年四月一日に、稲荷邦仁校長の後任として着任しました宮﨑修次と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。新学期が始まりましたが、今年度も感染症対策のため、「安全・安心」を基本とした教育活動を行ってまいります。社会全体ではコロナ禍前の生活に戻りつつあることを実感しますが、本校の子どもたちの実態を踏まえた対応であることを御理解いただけると幸いです。

さて、私がこの原稿を書いているのは四月下旬ですが、学校近隣の畑には麦の穂が勢いよく伸びている光景が広がっています。そのうち一面が黄金色に輝き、麦秋の季節が到来します。愛媛県は「はだか麦」の生産量が全国一であり、その最たる産地が東温市ですので、このような田園風景を目にすることができるわけです。小学生のころ、我が家でも麦を栽培しており、春先には父が小さな耕運機に鉄製のローラーを取り付けて、畑をちょこちょこと走り回る様子が楽しそうで、「僕にもやらせて。」と懇願した記憶があります。危ないからだめだ、と即却下されましたが、この作業は「麦踏み」と呼ばれ、丈夫な麦を育てるためには欠かせない重要な作業です。麦の芽が長くなる前に、踏んで圧力を加えることで植物の成長ホルモンが促進され、その結果茎が太くなったり、根の張りがしっかりしたりして、寒さに負けない強い株になるのだそうです。

たくましく育てるためにあえて軽い負荷をかけてあげるという、この麦踏みというプロセスは、人の健やかな成長を促すうえで相通ずるものがあります。本校の今年度の重点努力目標は「チャレンジし続ける幼児児童生徒の育成ー知りたい　伝えたい　やってみたいー」です。積極的に学びに向かい、そこで得た知識を自分のものとして生かし、さらに次のステップに向かう、この過程において、教育的配慮をしたうえでの適切な負荷が加わることで、より深い学びが期待できると考えます。本校は今年で創立六十周年を迎えます。諸先輩方が築いてくれた礎を踏み締めて、これからも挑戦を続け未来につなぐために、教職員一同努力してまいります。どうか皆様の御協力をお願いいたします。

# 部通信

## 新年度を迎えて

幼・小学部主事　道免　真紀

幼稚部・小学部は、小学部に七名の一年生を迎え、年長児一名、小学部児童五十四名の計五十五名でスタートしました。新しい環境にも慣れ、学校生活を笑顔で過ごす子どもたちの姿が見られます。今年度は、長寿命化工事のため、寄宿舎や第四教棟に教室を配置したり、年度途中に一部の学級で教室を移動するようにしたりと、例年と違った対応をとっています。物理的な変化はありますが、安心して過ごせるよう取り組んでまいりたいと思います。

今年度も感染症対策においては、基本的な対応を継続していきますが、これまで分散して行っていた学習活動をグループや学年で一緒に行ったり、少しずつ活動内容も緩和したりしています。多くの友達と対面しながら関わる機会が増え、体験的な学習も増えていくことで学校生活や学びがより豊かに充実していくことが期待できます。

子どもたちの伝えたい気持ちや伝え方が向上するよう、そして「やりたい・できるようになりたい」という気持ちに寄り添いながら成長を促すよう、保護者の皆様との連携を大切にし、取り組んでまいりたいと思います。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

## 新年度を迎えて

中学部主事　村上　礼

令和六年度の中学部は、六名の新入生を迎え、二年生十五名、三年生四名の合計二十五名でスタートしました。

生徒たちは新しい環境にも慣れ、それぞれのペースで積極的に授業に取り組んでいます。各教室からは学習に励む楽しそうな声が聞こえており、充実した学校生活を過ごしていることが伝わってきます。

今年度は創立六十周年ということで、五月に「六十周年記念運動会」、十一月に「六十周年記念文化祭」が開催されます。また、遠足、校外学習、修学旅行などの学校行事もあります。今年度も校内での感染対策はほとんど変わりませんが、生徒たちが楽しみにしている学校行事については、感染症対策を第一に、活動内容や方法を考え、工夫することで充実したものにしていきたいと考えています。昨年度までの教育活動の中で、様々な制限がありながらも、柔軟に対応し、実践してきたからこそ、見えてきたもの、変わってきたことがたくさんあります。今後も今までの教育活動の成果を大切に活動していきたいと思います。

中学部の生徒たちが学校生活の中で楽しみを見付けるとともに、「正しく明るく　たくましく」成長する姿を保護者の皆様と共有できるよう、日々の教育活動に全力で取り組んでまいります。皆様の御協力をお願い申し上げます。

## 秘めた可能性の発見

高等部主事　宮田　国光

高等部は、新入生十九名を含めて四十八名からのスタートです。四月は、若干緊張気味の新入生でしたが、徐々に高等部の生活にも慣れてきて笑顔が増え笑い声も大きくなってきました。今年度は、昨年度よりもより充実した経験ができるように様々な行事や、体験活動を計画していこうと思います。楽しみにしていてください。

さて私は、今年も作業学習木工班で生徒達と一緒に木工製品を作ります。生徒たちにとって初めて使う機械や工具も多く、取扱いの説明から手本の実演を行い製品作りに入ります。始めは糸のこの刃が折れたり、木づちで手をたたいたり失敗しますが、「どうすればうまくいくか？」「どうすればきれいにできるか？」など、試行錯誤しながら上達していきます。その過程で、生徒ができることをついつい教師がしてしまい生徒の可能性・伸び代を潰してしまうことがあります。本来は、生徒の実態に応じ、手を出し過ぎずできるだけ一人で活動できるように見守ること。できたときに、しっかり称賛することが大切です。生徒たちは、助言をもとに自分で考えて実践するようになり、改めて秘めた可能性を見せてくれます。さらに、「作業学習が楽しい。」と言ってくれることは教師のやりがいになっています。「楽しみながら仕事（生活）をする。」卒業後の進路が個性と職業（作業・生活）につながることを願います。卒業後を見据えた指導に、今年度も御協力よろしくお願いします。